宝ホールディングス株式会社

2014年2月

事業構造

宝ホールディングス株式会社

持分比率: 100%

宝酒造㈱

子会社25社

酒類・調味料事業

◆国内酒類事業
◆調味料・酒精事業(B-to-B)
◆海外酒類事業、
日本食材卸事業

宝酒造グループ

持分比率: 60.9%

タカラバイオ㈱
[東証マザーズ: 4974]

子会社10社

バイオ事業

◆遺伝子工学研究事業
◆医食品バイオ事業
◆遺伝子医療事業

タカラバイオグループ

持分比率: 100%

宝ヘルスケア㈱

健康食品事業

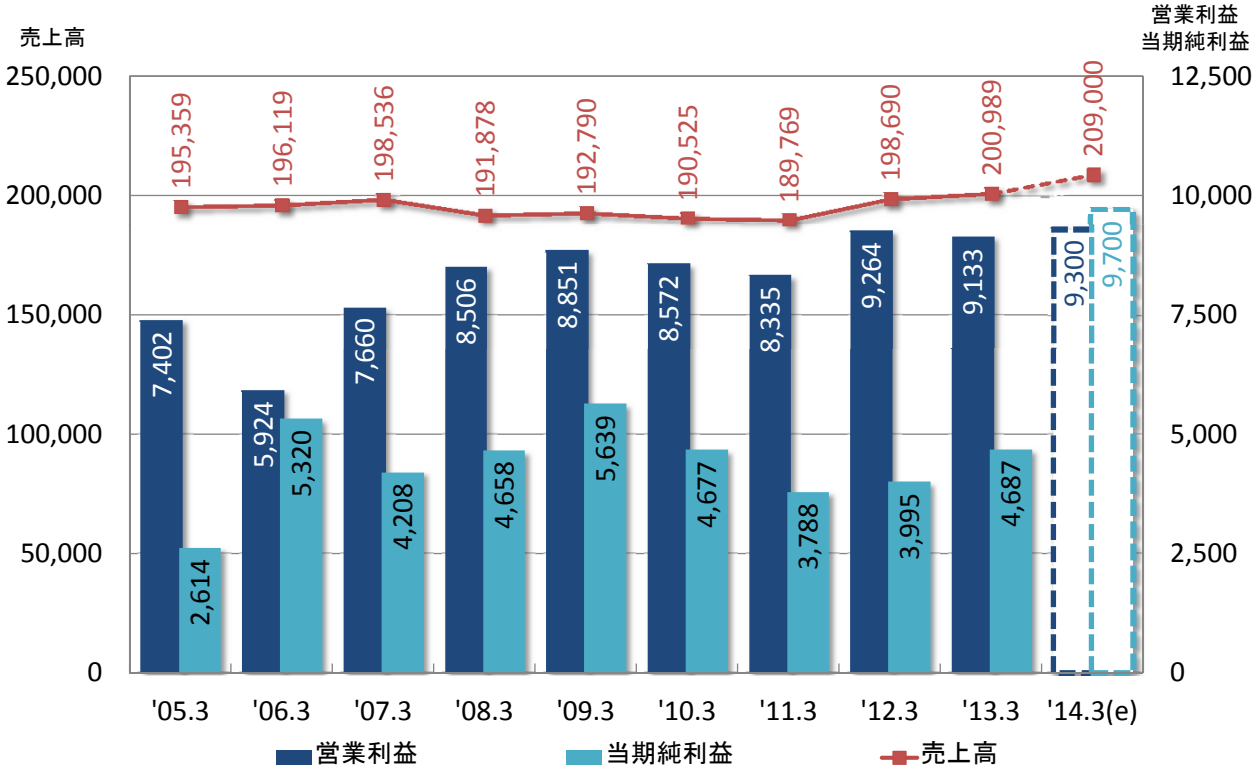
宝ヘルスケア

その他子会社3社

業績推移

◆ 10年間の業績推移

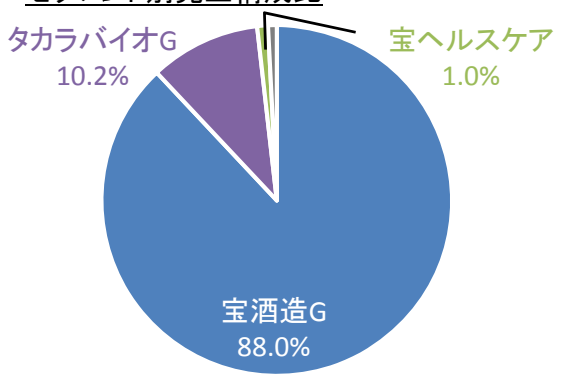
(百万円)



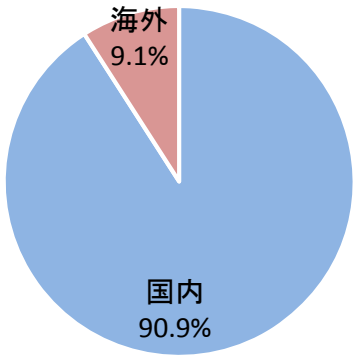
業績 (2013年3月期)

◆ 連結売上高: 200,989百万円

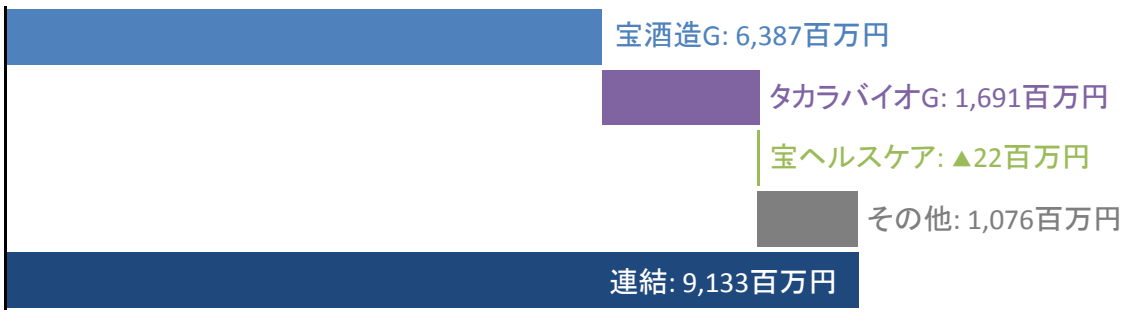
➢ セグメント別売上構成比



➢ 地域別売上構成比



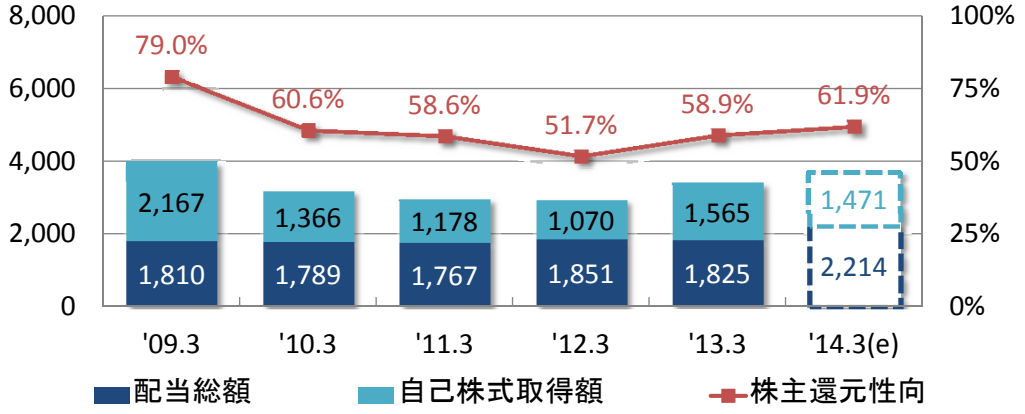
◆ 連結営業利益: 9,133百万円



株主還元

◆ 株主還元総額・株主還元性向の推移

(百万円)



◆ 財務方針 (TaKaRaグループ中期経営計画2013)

健全な財務体質を維持しながら、成長・育成事業への投資と、
積極的な株主還元を実施し、ROE（自己資本利益率）の向上を目指す。

➢ 株主還元

配当と自己株式取得を合わせ、株主還元性向* **50%** 以上を実施する。

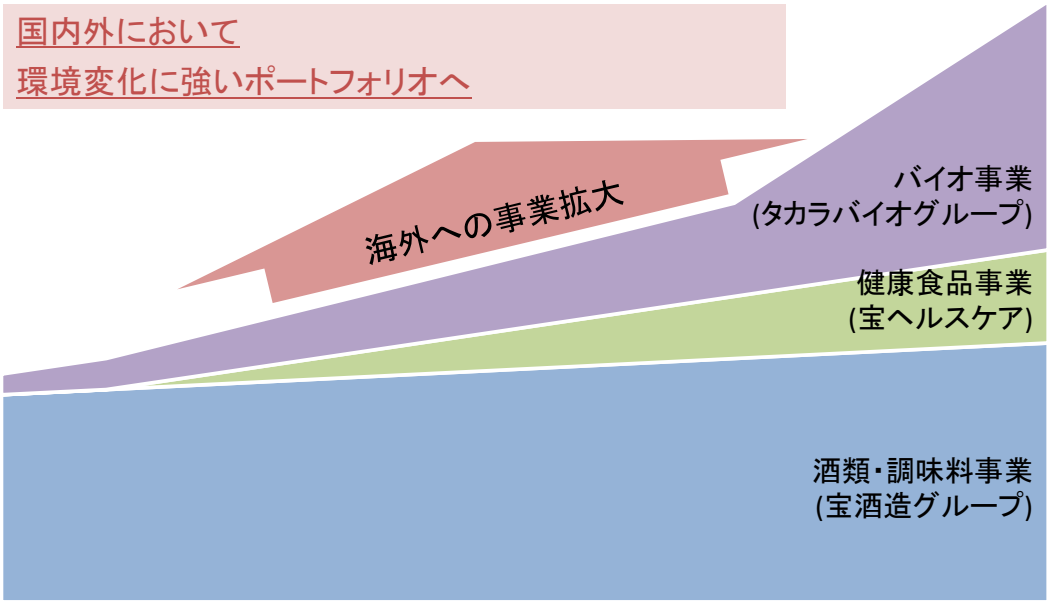
* 株主還元性向 = (配当総額 + 自己株式取得額) / みなし連結当期純利益**
**みなし連結当期純利益 = (連結経常利益 - 受取利息・配当金 + 支払利息) x (1 - 法定実効税率)

長期経営ビジョン

◆ TaKaRaグループ・ビジョン2020 (2011年4月より10年間)

経営目標　国内外の強みを活かせる市場で事業を伸ばし、
環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立する。

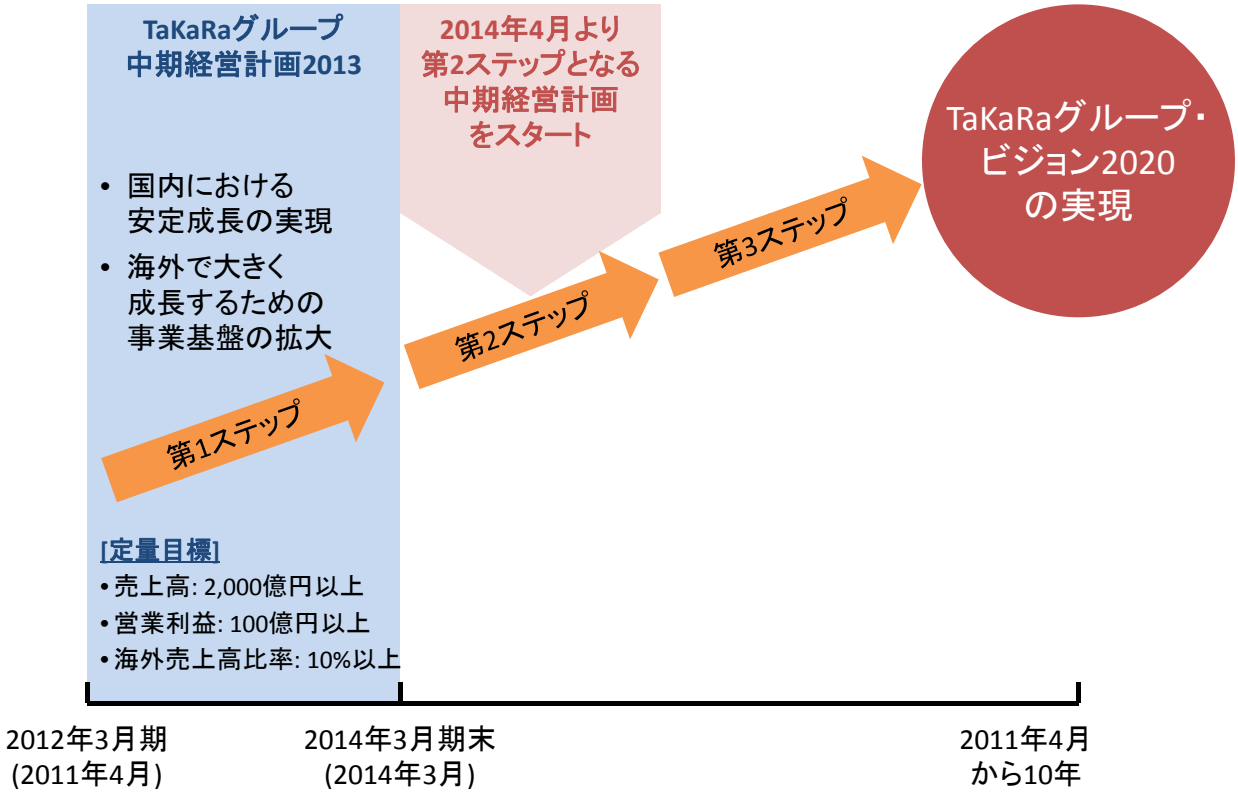
国内外において
環境変化に強いポートフォリオへ



安定収益基盤と成長事業を有する独自の強固な事業ポートフォリオ

TaKaRaグループ・ビジョン2020の実現に向けて

◆「TaKaRaグループ・ビジョン2020」達成へのロードマップ



宝酒造グループ

➢ 酒類・調味料事業

宝酒造グループについて

◆ 国内酒類事業

焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料（RTD）、調味料等の製造・販売

焼酎

清酒

ソフトアルコール飲料（RTD）

調味料

◆ 調味料・酒精事業

加工業務用調味料事業と酒精事業（B to B）

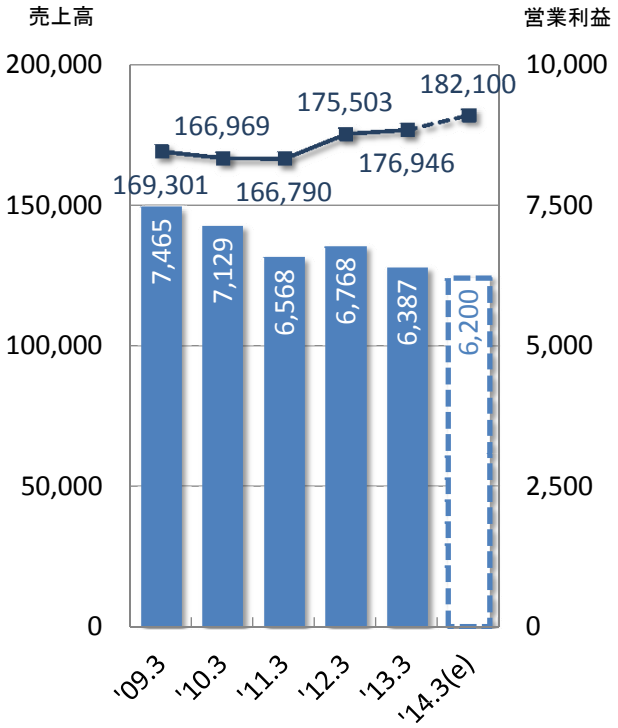
◆ 海外事業

海外酒類事業と日本食材卸事業

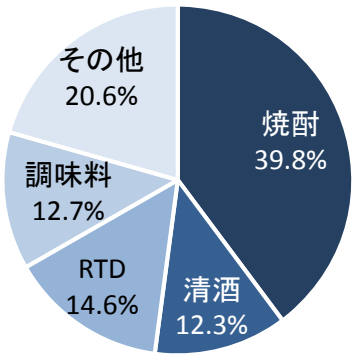
業績概況 (宝酒造グループ)

◆ 売上高・営業利益

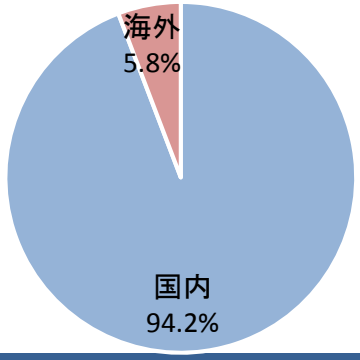
(百万円)



➢ 品種別売上構成比 (2013年3月期)



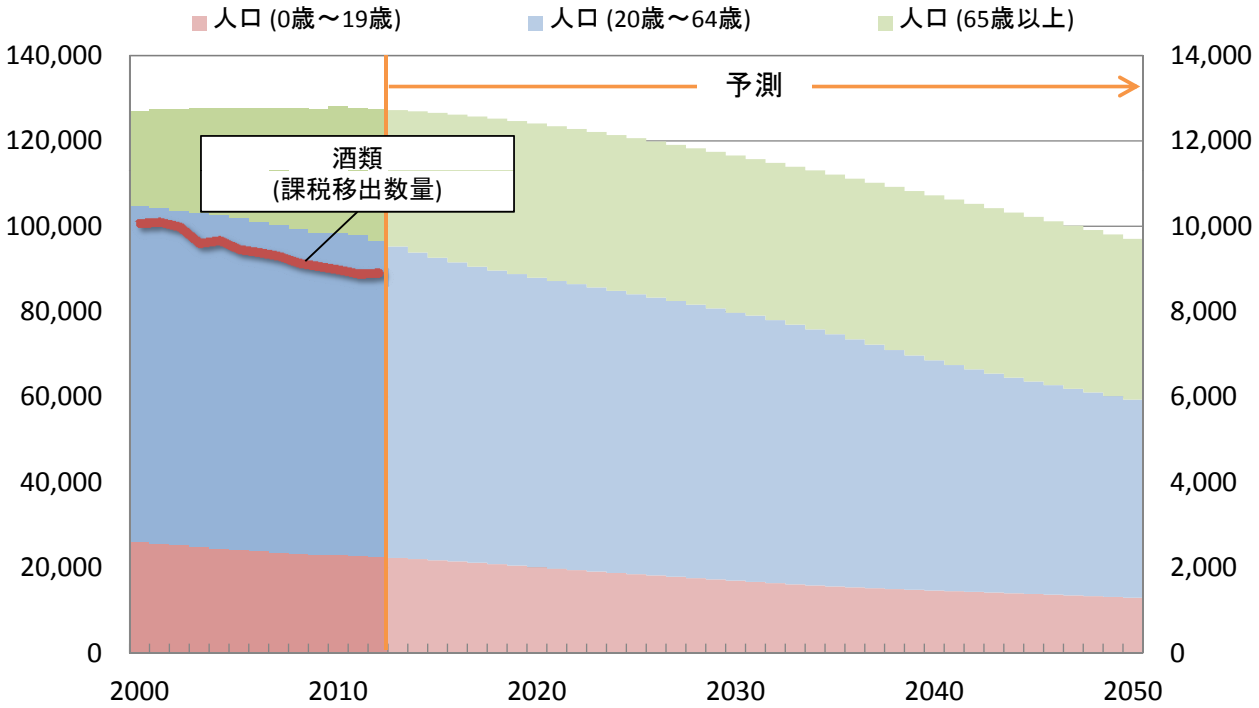
➢ 地域別売上構成比 (2013年3月期)



国内酒類市場の動向 (1)

◆ 日本の人口と酒類市場規模の推移

[単位] 人口: 千人 (左軸)
酒類: 千キロリットル (右軸)

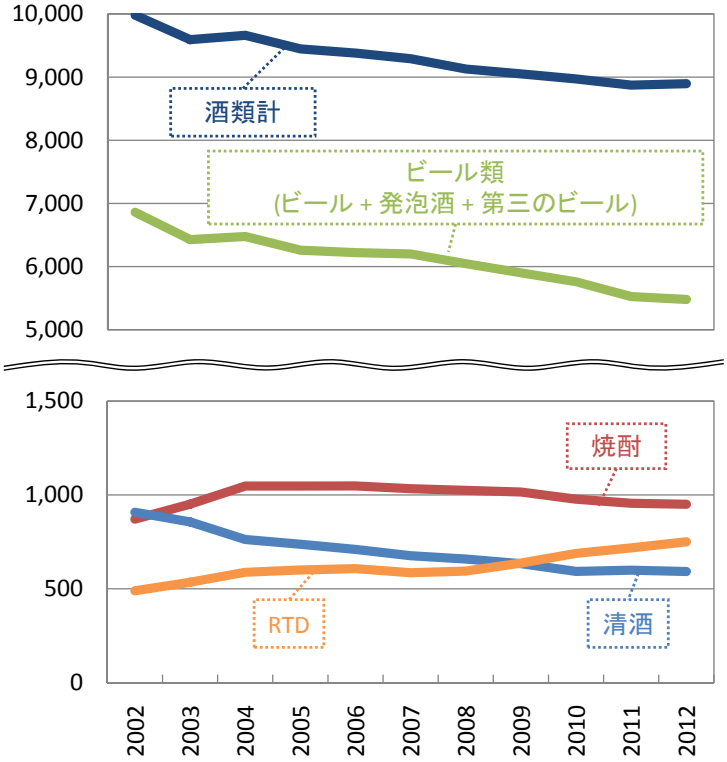


<データ出所> 人口: 総務省統計局、国立社会保障・人口問題研究所
酒類(課税移出数量): 国税庁

国内酒類市場の動向 (2)

◆ 日本の酒類課税数量推移

(千キロリットル)



➢ 国内市場シェア

カテゴリー	国内市場シェア	順位
焼酎	13.7%	1位
甲類焼酎	30.0%	1位
清酒	8.4%	2位
贈答用 (一升壜)		1位
ソフトアルコール飲料 (RTD)	12.1%	3位
みりん (1種)	54.4%	1位

* 焼酎、みりん: 2012年1-12月
清酒、RTD: 2013年1-12月

<データ出所> 国税庁、醸造産業新聞社、日刊経済通信社、全国味淋協会

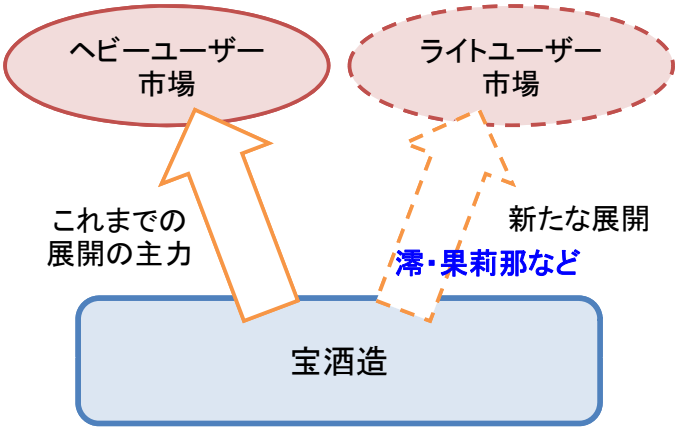
国内酒類事業

◆ 事業戦略

新商品の開発	ブランド育成	収益力の強化
差異化品質を持った オリジナリティある 新商品の開発	こだわりゾーンと スタンダードゾーンの双方で 多数の強いブランドを育成	利益マネジメントの強化と 業務効率化の推進

安定的なキャッシュフローを生み出し、グループの成長を支える

●2014年3月期の重点施策



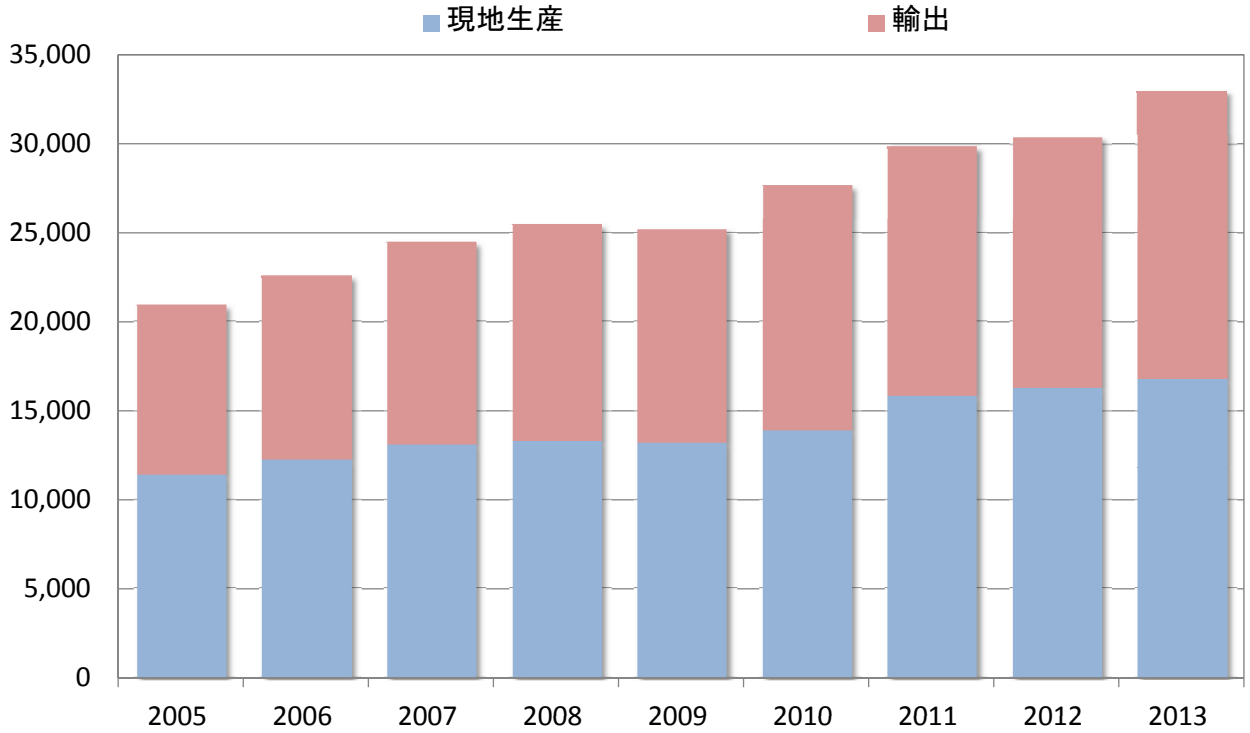
松竹梅白壁蔵「澪」
スパークリング清酒

ジュレのお酒
「果莉那」

海外の市場環境 (1)

◆ 世界の清酒市場の動向

(キロリットル)



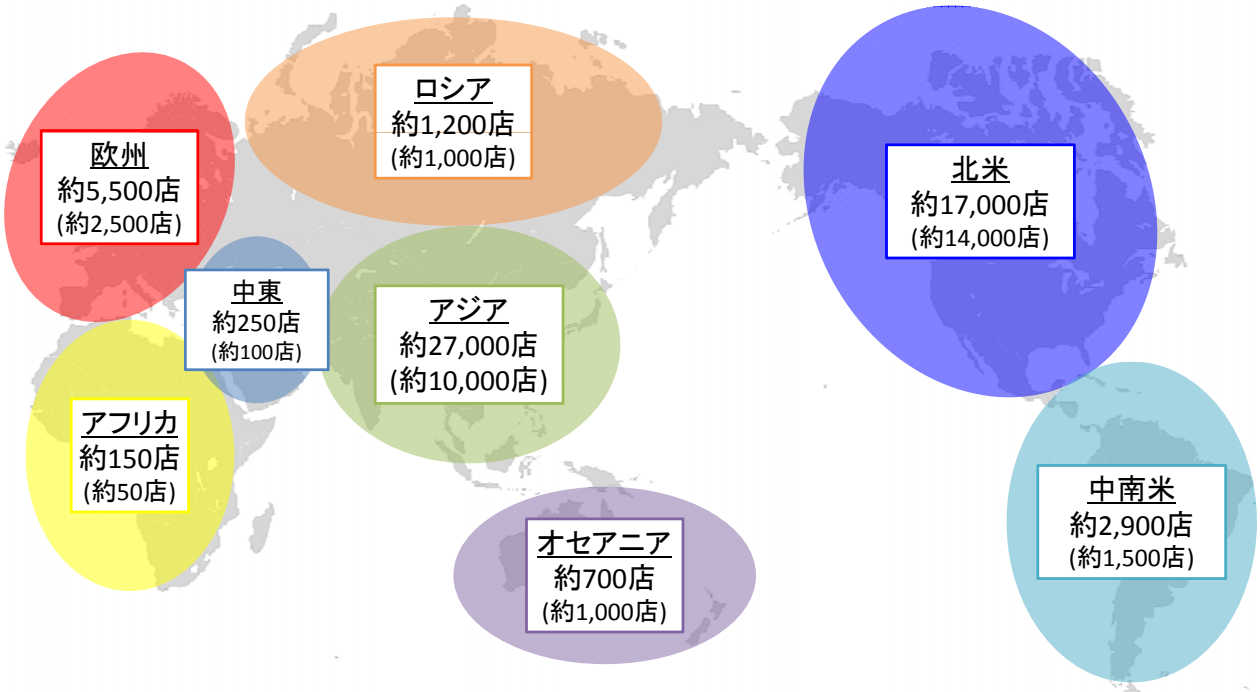
<データ出所> 輸出: 財務省貿易統計
現地生産: 醸造産業新聞社（清酒大手9社の現地生産合計）

海外の市場環境 (2)

◆ 世界の日本食レストラン店舗数の推移

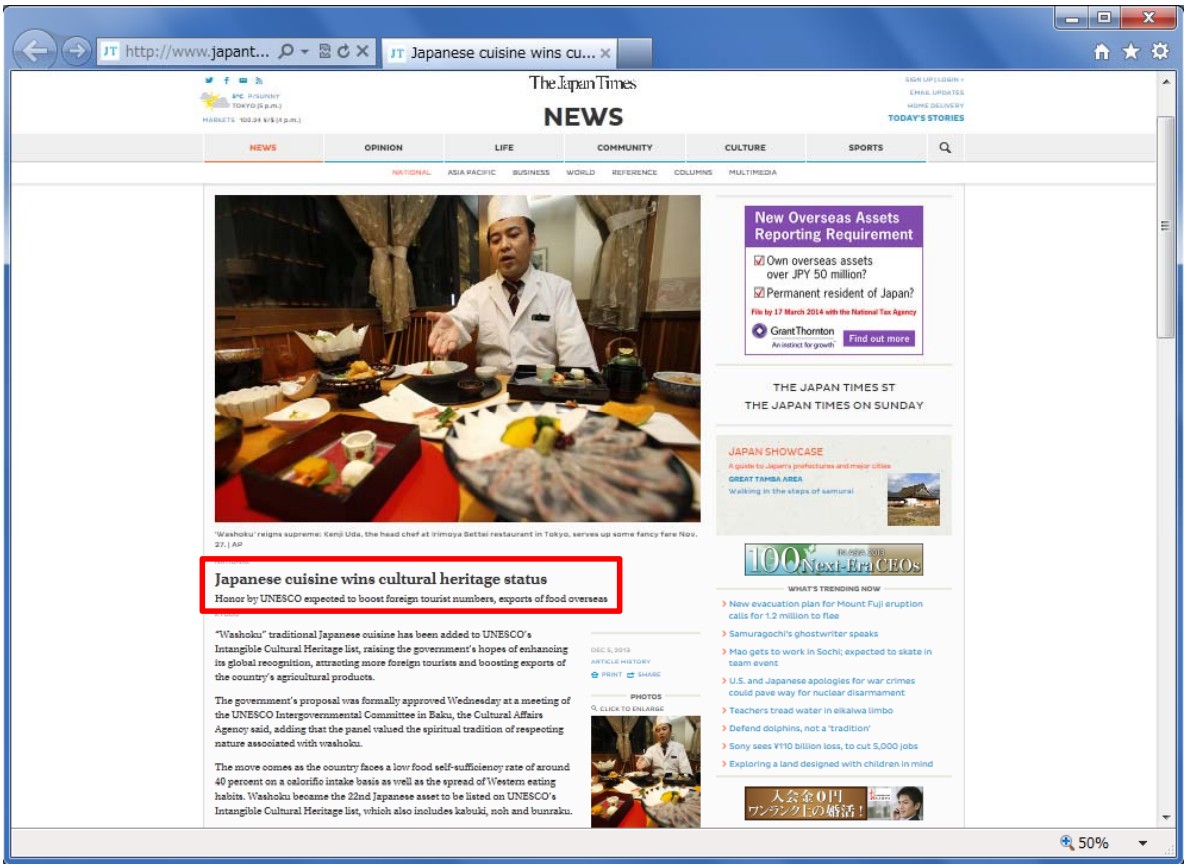
2006年	→	2010年	→	2013年
約24,000店		約30,000店		約55,000店

＊図中上段は2013年の店舗数、
下段カッコ内は2010年の店舗数



<ﾃﾞｰﾀ出所> 農林水産省

「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録



海外事業

◆ 事業戦略

海外酒類事業	日本食材卸事業
海外清酒市場で 圧倒的シェアNo.1への基盤構築	欧米市場における 販売網の構築・拡大

両事業のシナジー
商品ポートフォリオの拡大と販売網強化
→ 新規販路獲得・間口拡大

海外酒類・日本食材卸の両事業を通じて日本食文化を世界に広め、海外事業の拡大を図る

●近年の活動内容

時期	内容	目的
2010年 4月	フーデックス（仏国）の株式を取得	日本食材卸事業への参入
2012年 11月	日本食材卸会社ミューチャルトレーディング（米国）の第三者割当増資を引受け	北米でのパートナーシップを強化 ＊議決権所有割合: 24.2% → 45.0%
2013年 7月	宝ヨーロッパホールディングス（オランダ）を設立	欧州での事業拡大に備える
2013年 9月	タザキフーズ（英国）の経営権を取得	日本食材卸事業の拡大

日本食材卸事業

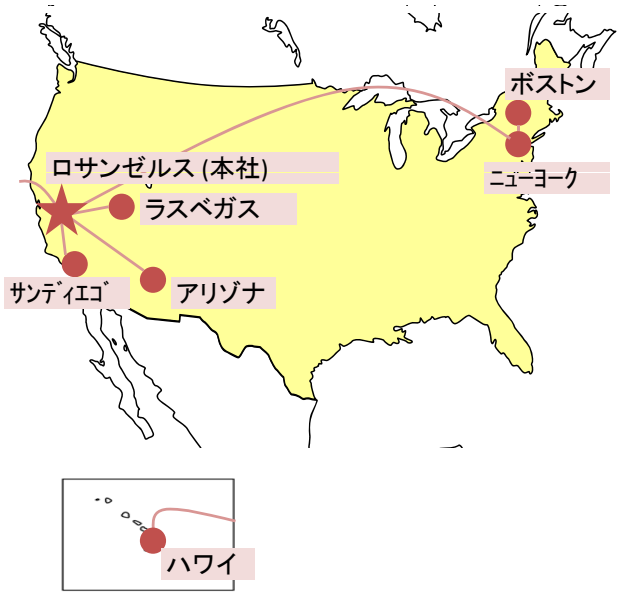
◆ 日本食材卸事業の拠点

●欧州

➢ タザキフーズ、フーデックスの拠点

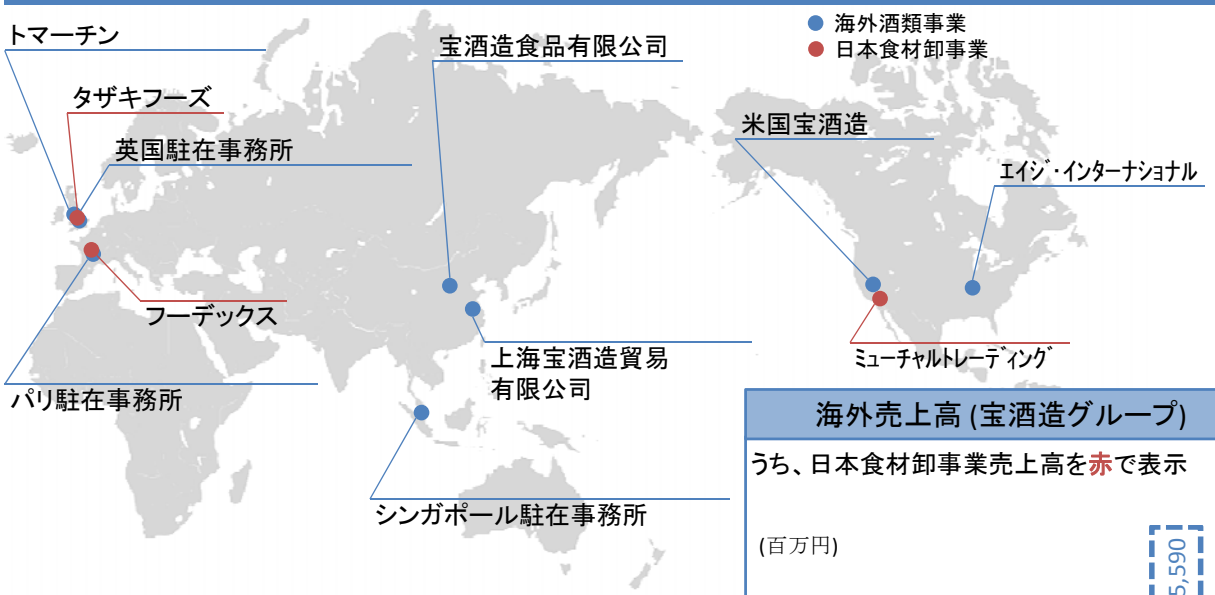
●米国

➢ ミューチャルトレーディングの拠点
(持分法適用会社)



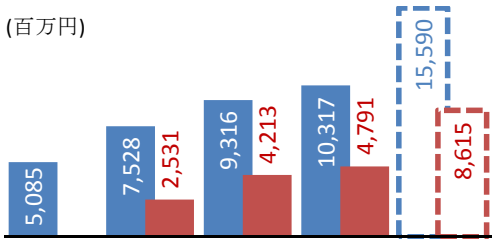
海外展開

◆ 宝酒造グループの海外拠点



海外売上高 (宝酒造グループ)

うち、日本食材卸事業売上高を赤で表示



タカラバイオグループ

- バイオ事業

タカラバイオグループについて

◆ タカラバイオグループの歩み

寶酒造株式会社（現・宝ホールディングス株式会社）の
バイオ事業としてスタート

2002年4月
新設分割の方式により
タカラバイオ株式会社設立

2004年12月
タカラバイオ株式会社が
東証マザーズに上場

◆ 遺伝子工学研究事業

研究用試薬・理化学機器の製造・販売、研究受託サービス

研究用試薬

理化学機器

研究受託サービス

◆ 医食品バイオ事業

健康食品・キノコ関連製品の製造・販売

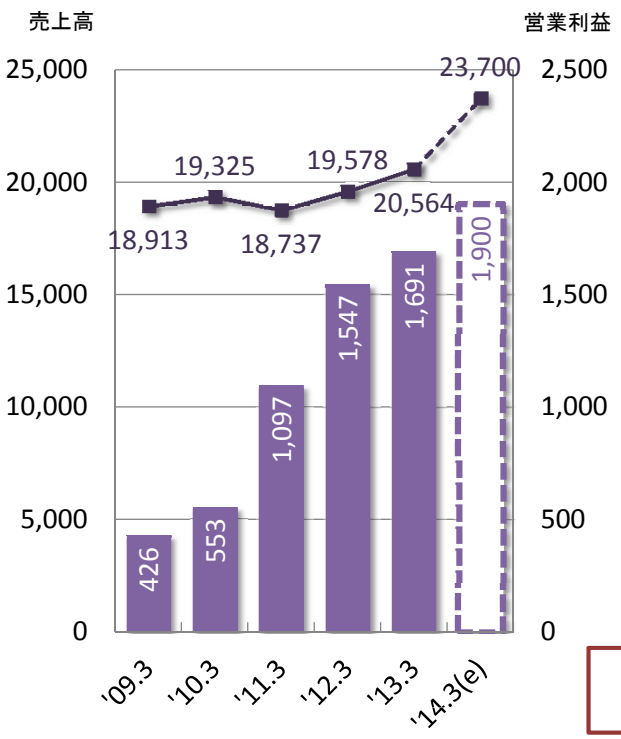
◆ 遺伝子医療事業

遺伝子治療・細胞医療の商業化

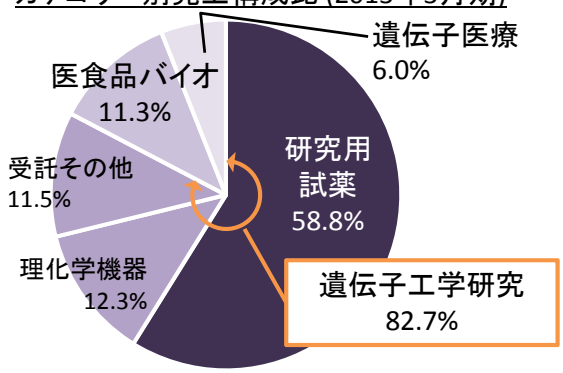
業績概況 (タカラバイオグループ)

◆ 売上高・営業利益

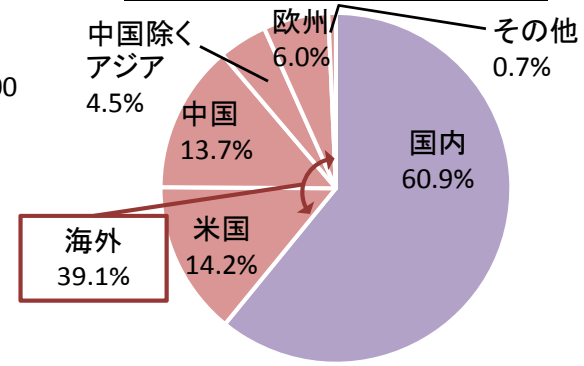
(百万円)



➢ カテゴリー別売上構成比 (2013年3月期)



➢ 地域別売上構成比 (2013年3月期)



基本戦略

◆ セグメント別業績概況 (2013年3月期)

(百万円)

	売上高	営業利益 (損失)	研究開発費
遺伝子工学研究事業	16,997	4,831	724
医食品バイオ事業	2,326	▲304	129
遺伝子医療事業	1,240	▲1,112	1,458
共通	-	▲1,722	402
計	20,564	1,691	2,715

◆ タカラバイオグループの基本戦略

安定収益事業である遺伝子工学研究事業と、
第二の収益事業化を目指す医食品バイオ事業で築いた安定収益を、
将来の成長ドライバーである遺伝子医療事業に投入し、
収益の拡大を図る。

遺伝子工学研究事業

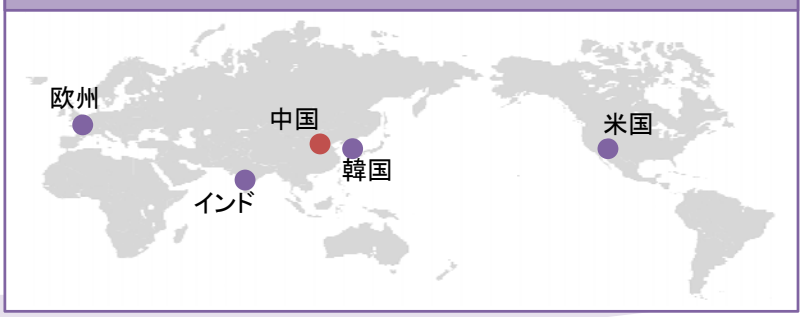
研究用試薬の豊富なラインナップ

2005年に米国BD社からクロンテック事業を買収

価格競争力の高い研究用試薬

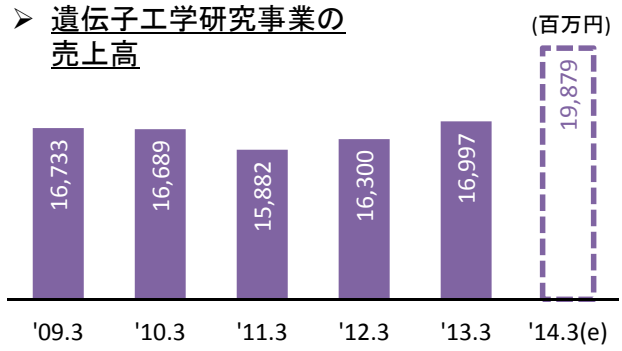
大半の研究用試薬を中国の大連で製造

世界の販売網

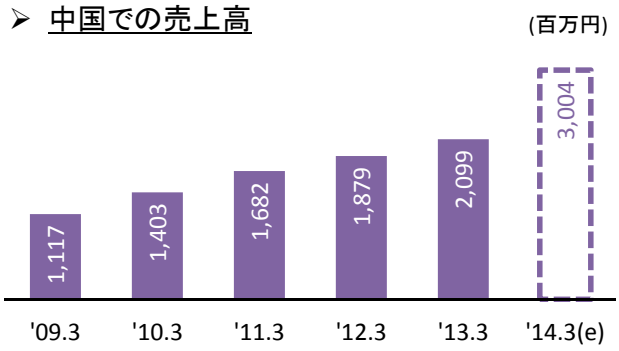


新興国を含めた国内外の市場開拓を進め、
売上拡大と収益力強化を図る

➢ 遺伝子工学研究事業の売上高

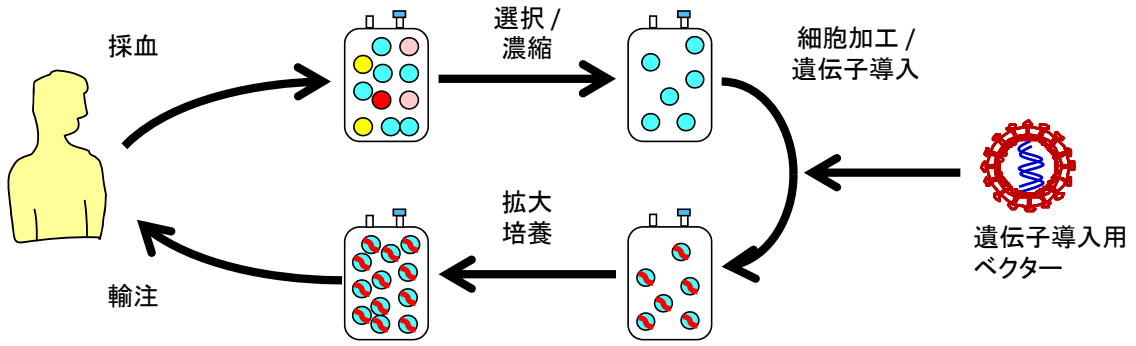


➢ 中国での売上高



遺伝子医療事業

◆ 遺伝子治療プロトコル



◆ 遺伝子医療の臨床開発スケジュール

治療法	対象疾患	現状と今後のスケジュール	商業化
HF10 (がん治療薬)	固形がん	米国・第Ⅰ相臨床試験 (2014年3月期 終了予定)	2019年3月期
HSV-TK遺伝子治療	造血器悪性腫瘍	日韓共同治験(第Ⅰ／Ⅱ相) (2016年3月期 開始予定)	2020年3月期
TCR遺伝子治療	食道がん等	日本・第Ⅰ相臨床試験 (2014年3月期 開始予定)	2022年3月期
MazF遺伝子治療	HIV	米国・第Ⅰ相臨床試験 (2016年3月期 終了予定)	2023年3月期

遺伝子医療事業を取り巻く事業環境の変化

◆ 日本政府の方針

日本政府は再生・細胞医療の普及のため、施策の推進や制度面の改正を進めている

A) 再生医療推進法(再生医療を国民が迅速かつ安全に受けられるようにするための施策の総合的な推進に関する法律)
⇒ 2013年5月10日より施行

B) 薬事法等の一部を改正する法律案、再生医療等の安全性の確保等に関する法律
⇒ 2013年11月20日に成立

期待される内容

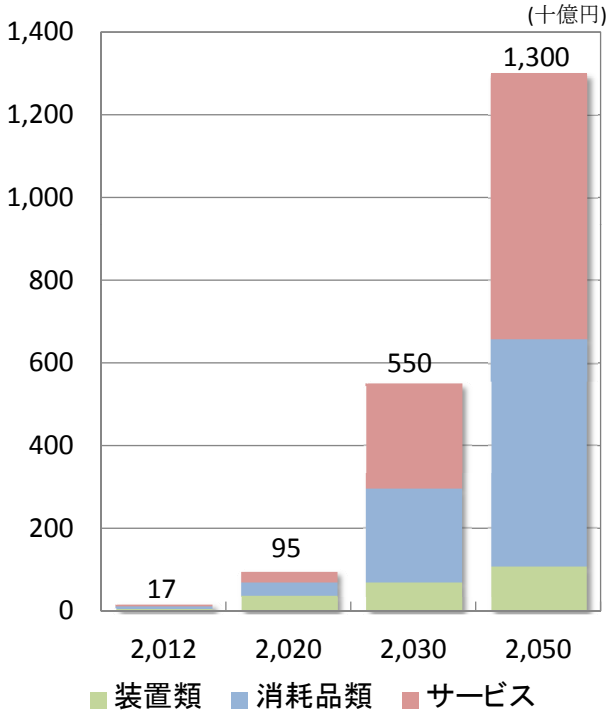
- 再生・細胞医療分野の研究開発の活発化
- 細胞加工の外部委託の実現
- 先端医療のリスクに応じた安全性担保の仕組みの制度化
- 新薬の早期承認制度の実現

タカラバイオグループへの影響

- 基礎研究や臨床研究分野における製品の拡販
- GMP製造受託、細胞加工受託、ゲノム解析受託などのCDMO事業の拡大
- 遺伝子治療の商業化までの期間短縮

再生・細胞医療の周辺産業の将来

◆ 再生・細胞医療周辺産業の国内市場規模予測



<ﾃﾞｰﾀ出所> 経済産業省「再生医療の実用化・産業化に関する報告書」をタカラバイオにて編集

●タカラバイオグループの製品・サービス

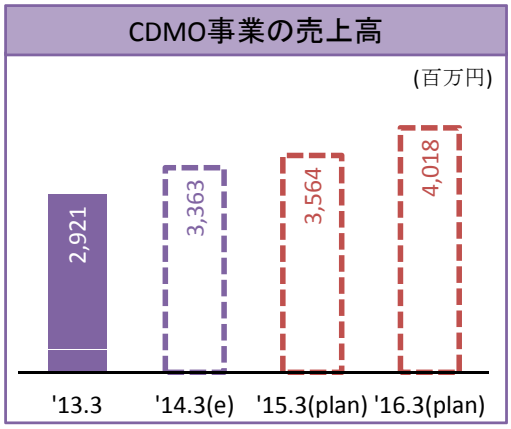
- 消耗品
  - ✓ 研究用試薬
  - ✓ 細胞培養用培地・バッグ

- サービス
  - ✓ 細胞加工受託
  - ✓ 細胞品質管理受託
  - ✓ GMPベクター製造関連受託
  - ✓ ゲノム解析受託
  - ✓ 細胞遺伝子検査受託
  - ✓ 技術支援サービス

CDMO (Contract Development & Manufacturing Organization) 事業

◆ CDMO事業の内容

- Non-GMP製造受託
  ベクターまたは細胞の製造プロセス・品質管理試験法の開発受託、試験製造受託、セルバンク、遺伝子解析などの研究受託サービス
- GMP製造受託
  臨床試験に用いるベクター・細胞のGMP製造受託、安全性試験等
- がん免疫療法の技術支援サービス
- 細胞医療用培地・バッグの販売
- GMPグレードの抗体・タンパク質の販売

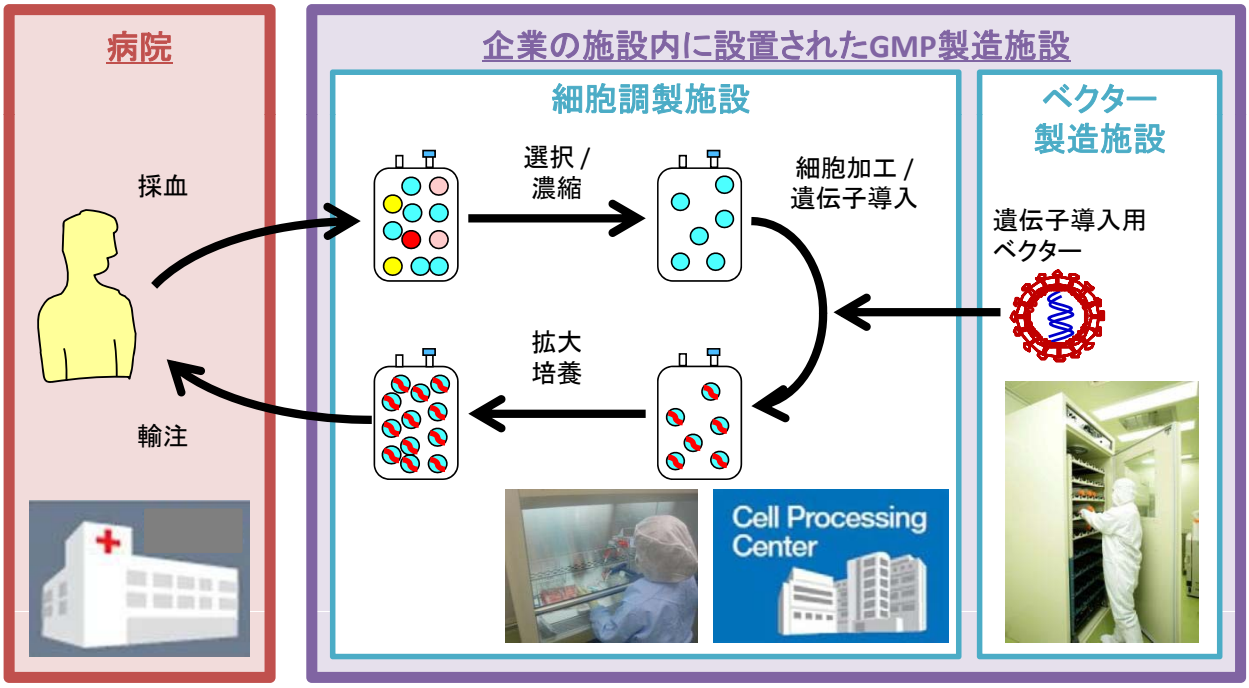


● 細胞・遺伝子治療用の研究・製造施設の新設

- 完成予定時期
  2014年7月（2014年10月本格稼働）
- 場所
  滋賀県草津市
- 目的
  レトロネクチンなどの組み換えタンパク質GMP製造、遺伝子治療・再生医療用の遺伝子導入用ベクターのGMP製造、遺伝子導入細胞などのGMP細胞加工、遺伝子治療プロジェクトの基盤技術開発

想定される細胞加工業のビジネスモデル

現状	将来
医療機関内の細胞加工施設のみで 医療用の細胞加工が可能	ベクター製造から細胞調製までの 一貫した細胞加工業



成長戦略

各事業グループの成長戦略

◆ 宝酒造グループ

国内は、酒類事業の収益力強化およびB to B事業の拡大、海外は、日本食材卸販売網の構築に取り組む。

世界における日本食市場の拡大

事業拡大のチャンス

海外における日本食材卸事業の拡大に向けた投資

◆ タカラバイオグループ

遺伝子工学研究事業と医食品バイオ事業で得た収益を、将来の成長事業である遺伝子医療事業の研究開発に投下する。

先端医療の普及を推進する政府方針

事業拡大のチャンス

CDMO事業の拡大と遺伝子医療事業の臨床開発プロジェクト推進に投資

TaKaRaグループは成長に向けた明確なビジョンを持った会社の集合体であり各社が目標に向かって邁進することで長期経営ビジョンの実現を図る

TaKaRaグループ・ビジョン2020の実現

将来見通しに関する注意事項

資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

<お問合せ>
宝ホールディングス株式会社
財務・IR部
E-Mail: ir@takara.co.jp